

**担当：** 河 錬洙（国際法・国際機構論・人権論など）

**研究テーマ：** 深海底資源開発をめぐる国際法

**研究キーワード：** 国際法・国際機構論・海洋法・国際人権論等々

### **授業（演習）の目標**

国際協力を行っている様々な主体の活動に関する従来の研究、すなわち学術論文をはじめ、各種データを収集・分析する。さらに、国際協力主体の活動分析を通じて、受講者自身の問題意識の高揚、論文の作成要領などを学習する。

### **到達目標**

国際法を含め、国際協力の諸主体の実態を認識するとともに、各主体の国際協力政策の在り方や課題を理解する。受講者は、各自、それぞれ関心テーマを設定し文献を収集・分析して、その成果を報告する。成果報告に関しては、受講者同士で討論を重ね、さらに問題意識の高揚や論点の整理などを行う。

### **授業計画**

1. オリエンテーション（授業の概要・授業目標・講義の進め方・成績評価方法などについて説明）

2～10. 国際協力活動に関する文献収集・購読・討論・論点の整理などを行う。

11～15. 研究課題の成果発表および論文（レポート）の作成

### **成績評価**

出席率（全体の3分の2（10回以上）以上出席）を30%、平常点（発言や課題報告など）を30%、学期末試験（最終レポート）40%と、総合的に評価する。

### **教職チェックリスト**

#### **テキスト**

必要に応じて、その都度、関連資料を配布する。

#### **参考文献**

講義の中で、随時、紹介する。

#### **オフィス・アワー**

授業終了後、もしくは、毎週金曜日（11：00～12：00）に、河研究室（1号館3階）での対応となる。ただし、教員の都合もあるので、原則として、事前に予約すること。

**ゼミ配属の要件：**なし。 **ゼミ配属の希望：**国際社会に興味を持ち、特に、国際協力または国際機構、あるいは国際法に強い関心を有することが望ましい。

※これまでのゼミ実績例（卒業論文テーマの例）

①国際協力 NGO の現代的役割：日本の国際協力 NGO が抱える諸問題と展望を中心に

②「子どもの権利条約」の現状と課題：日本の差別問題を中心に

③外国人への参政権付与問題の論点の整理と考察：外国人の地方参政権を中心に

等々